



子供とは何んなもの

中村 五六

萬物の靈長であると云つて世界を横行して現在最優者の地位を占めて居る我々人間も其始めて母の胎内から生れ出でたる時は實に可憐な一小動物に過ぎないのであります。彼鶏は卵から孵化すると直に何等の教育も受けないが別段距離や方面を誤ることもなく自由自在に所々歩き廻つて虫を探したり穀粒をついばんだりして居ます、其他犬でも猫でも馬でも牛でも皆然うであるし、虎や獅子は尚更で生れた時から既に自立自動し、周圍の狀態に於て甚だしき故障のない限りは生存を繼續し

て天然の壽を終ふることが出来るのであります。然るに我々人間と云ふものは中々然うたやすくは自立することの出来ないもので生れ落ちた時は眼は見えず耳は聞えず實に可憐な一小動物であるといふより外に云ひ様のないもので若し慈愛な母親が之を愛撫すると云ふ事もなく寒暑や災厄から擁護することがなかつたならば到底數日の命も之を保つことは出来ないものであります。生れた時に斯様な意氣地のない動物であつたものが僅か二十年ばかりの年月慈愛な母に養育され深切な教育者に教えられた結果は遂に萬物も敵することの出来ない所の人間と云ふものになるとは如何にも不思議なことであり、人類以外の動物は生れた時こそ他の援けがなくとも獨立して居れるが其代り唯日々持つて生れた本能を單に繰り返して居ると云ふだけであるから其生活は千篇一律で古來一定の範圍以外に發達して出たと云ふことはないのであります、況して一朝外國の事情が

特別の變化でもしたと云ふ時には機に應じて之に處すると云ふことは出來ず遂には其生命さへも失ふてしまふものであります。然るに人間は生初の可憐極まる状態より漸々發達して行くばかりでなく一時代は一時代りも益進歩發展の度を高めて行くので昔の人間と今の人とは逆も比べ様がない位進歩して居ると云ふことです。之を智力の淵源たる脳髓に徴しても其組織の上に現はれた進歩の跡は著るしいものだと言ふことです。誠に人間と云ふものは不思議千萬な動物であります。

子供が斯様な不可思議な素質を備へて居るのを稱して子供は教育可能性を持つて居ると申します。生初食物の滋養さへ辨へなかつた可憐な動物が僅かに二三十年の後は天然の防害にも堪え自然の勢力にも打ち克つて美はしく其生存を續けて行くことを得るのは全く外界から受けた所の教育が子供の心身をして能く發達せしめたのに違いないのです、殊に一代々々と人類の進歩して行つて常に一

定の文明程度に止まると云ふことのないのは明に教化に因つて後人が前人以上に發達することを證するものであります。若し後人が前人以上の發達することが出來ないで何時も其文明程度以下に居る可きものとしたらば、今代の文明は到底古の文明に優ることは出來ず世は次第に進歩したものと推定した、ダーウインは一個の贅語を吐いたものと云はれるでせう、併し事實は是と反對で子は父を超えて發達することが出来るし弟子は師父を超えて發達することの出来ることは明な事實で我々は之あるが爲めに將に來る可き未來の幸福に向つて希望の光明に輝かされて居る次第であります。

要するに子供と云ふものは生初のかよわく憐れな状態から漸次發達して遂には自然勢力にさへ抵抗する様な素張らしいものになるのであります。